

平成 28 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけて高気圧に覆われて概ね晴れたものの、北・東日本では上空の寒気や湿った気流の影響で局地的に大雨となりました。1 日から 3 日にかけては、上空に寒気を伴った低気圧が東日本から北日本へ北上したため、北・東日本を中心に大気の状態が不安定となって雷雨となり、非常に激しい雨となったところもありました。旬の後半は、本州付近で太平洋高気圧が強まって概ね晴れて各地で猛暑日となりました。

中旬は、高気圧の勢力が黄海付近で強く、東日本日本海側と西日本以西では旬を通して概ね晴れて、北日本と東日本太平洋側でも旬の前半を中心に概ね晴れました。特に西日本では、背の高い高気圧に覆われたため、旬間日照時間もかなり多くなり、顕著な高温となりました。北日本と東日本太平洋側では、台風や湿った気流の影響を受けやすく、特に、北日本太平洋側では旬降水量が平年比 326% となり、8 月中旬として 1 位の多雨となりました（統計開始は 1961 年）。15 日には、台風第 6 号が北海道の南東海上から根室半島を通過したため、北海道地方のオホーツク海側や太平洋側では荒れた天気になったほか、東北地方から西日本でも局地的に大雨となりました。また、16 日から 17 日には台風第 7 号が関東から東北太平洋側の沿岸を北上し、北海道地方に上陸しました。このため、北・東日本では太平洋側を中心に大荒れの天気となり、記録的な大雨となったところもありました。

下旬は、旬の中頃にかけては高気圧の勢力が黄海付近で強く、東日本日本海側と西日本以西では概ね晴れて気温の高い状態が続きましたが、旬の終わりは寒気が流れ込みかなりの低温となった日もありました。一方、北日本と東日本太平洋側では、中旬に引き続き台風や湿った気流の影響を受けやすく、旬降水量はかなり多くなりました。20 日から 21 日にかけては、台風第 11 号が関東の東から三陸沖を北上し、北海道地方に上陸しました。北・東日本太平洋側には湿った空気が流れ込み、関東甲信地方や北海道地方では局地的に大雨となりました。22 日には台風第 9 号が関東地方に上陸し、23 日にかけて東日本から北日本を縦断しました。このため、北・東日本では太平洋側を中心に大荒れとなり、各地で大雨や暴風による災害が発生しました。その後も、29 日に関東の東海上を北上し 30 日に東北太平洋側に上陸した台風第 10 号の影響で、北日本から東日本の広い範囲で大雨となり、北日本太平洋側を中心に各地で大雨による災害が発生しました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、北・東・西日本でも高くなりました。月降水量は、北日本でかなり多く、東日本太平洋側でも多くなりました。月間日照時間は、北日本日本海側と西日本でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側でも多くなりました。

【8 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 4 ポイント高い 83% で、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 80% でした。各地方の適中率では、明日予報については、東海地方と沖縄地方で例年値より低くなり、それ以外の全ての地方で例年値より高くなりました。特に九州北部地方では 11 ポイント高くなりました。明後日予報でも、東海地方と沖縄地方以外の全ての地方で例年値より高くなり、特に九州北部地方で 12 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.4 となりました。全ての地方で例年値以下となり、特に中国地方と九州南部地方では 0.5～0.6 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1 小さい 1.0 となり、沖縄地方以外の全ての地方で例年値より小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10 月の天気予報の利用にあたって】

秋になると日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過する際には、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報で大雨や強風などが予想された場合は、最新の気象情報や警報、注意報などに十分留意して下さい。また、低気圧の通過後に北寄りの冷たい風が吹いて気温が下がり、その後高気圧に覆われて気温が上がるなど、寒暖の変動が大きい時期もあり、健康管理にも留意願います。